

令和7年度 学校関係者評価書（川南町立通山小学校）

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		自己評価結果の考察・分析および改善策等	関係者評価		学校関係者評価委員の意見
		項目	総合		項目	総合	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進							
1	家庭教育支援の充実 ^① に努める。 ①家庭教育学級の充実 ②おやじの会との連携	3.2		①計画通りに家庭教育学級を開催し、研修会を行うことができた。ふれあい参観日で福祉教育の親子講座を実施した。3校合同の研修会も実施することができた。②花の苗運び、生き方教室、奉仕作業等で参加していただき助かっている。運動会前のテント立てについては急な要請にも関わらずお父さん方が駆け付けて手伝ってくださり助かった。	3.1		①家庭教育学級の取組など、学校と保護者の連携はよくなってきている。②おやじの会として、もう少し活動の場を設けてほしい。学校に協力してくださる保護者が多いと感じている。今後も保護者の方とのかかわりを多くもてるような場を設けていってほしい。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。(PTA活動) ①地域の人材・素材を活用した学習や行事等の充実 ②幼・保・中との連携・交流 ③通山地区コミュニティセンターと連携	3.2	3.2	①教務主任が中心になって連絡調整を行い、年間計画通りに学習を行った。農大、企業地域人材にご協力いただき充実した活動になった。②特支Coが訪問し、来年度入学児の観察等で連携を図った。③館長をはじめ役員の人柄が温かく話しやすいので連携しやすい。学校行事、地域行事にお互いに協力し合い充実した連携ができています。学校から地区の行事の十五夜やカローリングにも参加させてもらった。	3.5	3.3	②幼保の園児との交流の機会をもっと増やしていったらどうか。 ③通山コミュニティセンターとの連携が今年も素晴らしいと感じた。自治公民館としては、小学校との連携が深まり、予想以上の活動をさせていただいたと感謝している。PTAと自治公民館の懇談会も検討してはどうか。(本年度は、PTA会長・地区子ども会長・校長が、公民館の定例会に出席している。)
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進							
1	読書活動を推進する。 ①教科等の学習における図書室の積極的活用 ②読み聞かせボランティアとの連携 ③ひなた電子図書の活用	2.5		①どの学年も積極的に図書室を利用しているが、貸出冊数が伸び悩んでいる(11月末現在5000冊程度、年間目標は10000冊)。新刊を入れたり、古書の廃棄や図書室整備を行ったりして、利用しやすく、利用しやすくなる環境整備にも取り組んだ。学力向上のためにも読書量を増やす取組を更に充実させたい。②全学年で実施できている。③ICTを活用した学習の一環でひなた電子図書の活用を図った。	2.8		①本を選んで読む経験を増やしていってほしい。貸出し目標の半分程度ということで心配であるが、図書室の整備等いろいろ工夫が見られるので今後に期待したい。読書の時間を確保する工夫も必要。 ②読み聞かせボランティアの参加者増加に伴い全学年に読み聞かせができたことはよかった。読み聞かせボランティアの育成も大切である。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ①基本的な学習態度の育成 ②教員の授業力の向上 ③ICTを活用した授業づくりの推進	3.0		①学年によってばらつきがある。どの学年でも共通して身に付くように、「ひなたの学び」に基づいた授業研究を行い、指導力の向上を図った。②2学期は一人一研究授業を行い、相互参観して、授業力向上の取組を行った。算数の授業では複数教員で習熟の時間に個別指導を行い、基礎的・基本的内容の定着に努めている。③習熟の場面でICTを活用して練習問題に取り組んだ。	3.1		①学びに必要な「聞く態度」は特に低学年でしっかり身に付けておく必要を感じている。先生方が研究授業を行うなど努力をしているのを感じた。すぐに結果が出るものでもないのを継続して頑張ってもらいたい。 ③タブレットの持ち帰りが始まり、我が子が取り組む様子を初めて見たが、表情がよく楽しんでいると感じた。これからは積極的に持ち帰りの機会を増やしてほしい。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ①心のこもったあいさつ・返事の実践 ②人権教育の常時指導の充実 ③いじめ等の早期発見・解消 ④命を大切に教育の推進	3.1	3.0	①レインボーサミットで国中校区は「あいさつ」(整理整頓)を生徒指導重点項目として取り組むことになった。生活委員会と生徒指導主事が中心になってあいさつ運動を行い、大きな声で先んじてあいさつをする児童が増えた。②年間計画に基づいて計画的に人権教育に取り組んでいる。よい行い等を積極的に挙げて、自己肯定感を高める声かけを積極的に行った。③悩みアンケートをもとに望ましい人間関係について指導を行っている。毎月教育相談を行い児童一人一人の気持ちに寄り添った丁寧な指導を行っている。児童や保護者からいじめ等の相談があった場合は、早期対応、細やかな対応を心がけ、解決に向けて組織的に対応した。④いのちを守る授業を行ったり、いのちのゲートキーパー研修を受講したり、積極的な取組を行った。	3.4	3.2	①子ども達の方からよくあいさつをしてくれると感じている。3年生の自発的な活動もあり素晴らしいと感じる。これからの伸びしろが楽しみである。学校から児童に対して地域の人にもあいさつをするように指導する。地域や家庭でのあいさつを習慣付ける。 ④命を大切に教育を通して、自分と隣人、周囲の人の生命はとても大切であることを理解してほしい。
4	特別支援教育を推進する。 ①児童一人一人のニーズに応じた支援の充実 ②特別支援体制と関係機関との連携の充実	3.3		①電話連絡や面談による対話を大切に保護者の要望をよく聞き、児童の状況に応じた支援を行った。特支研修で児童の実態を全職員が共有し指導できるようにしている。②SSWやSC、民生委員児童委員、特支エリアCoと連携して個に応じた指導を行った。	3.4		①個のニーズに応じた指導は大変なことと思うが、よく指導されていると感じた。全職員で研修を行い、情報を共有して指導できることが大変よいことだと思う。一人一人の特性に合わせた対応がなされていると感じる。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ①地域の人材・素材を活用した学習や行事の充実【2-①関連】 ②総合的な学習の時間における	3.0		①年間計画通り、地域人材、素材を活用しながら学習や行事に取り組んでいる。地域の企業を見学したり、地域の方に授業に来てもらったりした。運動会では、番野地盆踊りにも取り組み、伝統文化継承に努めることができた。②新たな人材発掘と継続的な支援をお願いできるように努めていく。	3.0		①②自分が生活している土地について知り、興味をもち、愛着をもつためには、学校での学びや活動が大切である。次年度も可能な限り活動を取り入れていってほしい。年間計画を作成し実践されているところが評価できる。
6	キャリア教育を推進する。 ①地元企業や人材等を活用した学習活動の推進 ②生き方教室の実施	3.1		①社会科見学、農業体験、自然体験、生き方教室等で地元の企業、施設、人材と連携した授業に取り組んでいる。各学年かなり充実した取組ができた。海の環境学習・お店見学・浜うどん(3年)農産物収穫体験(低学年)、郵便局・企業見学(2年)、生き方教室(6年)、ミシン支援(高学年)②6年生を中心に図書館、農家、埋蔵文化センター、物づくりマイスター等の各分野のプロフェッショナルを招いて授業を行った。	3.2		①②各種体験も充実していて、体験して考えたことをアウトプットする取組も素晴らしい。地域の企業・事業者・人材の発掘にもつながっており、各々の励みにもなっている。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ①ICTを活用した授業づくりの推進【2-③関連】 ②対話的な学びの実践	2.8		①本年度の主題研究に授業でICTを効果的に活用して授業の質を高める取組を行った。夏季休業では外部講師を招いて授業でタブレットをどのように活用していくか研修を行った。特に授業終了の習熟の場面で、タブレットを活用して練習問題に取り組んでいる。②対話的な学びの実践については、日頃の授業において必ずしも実践できているとは言えない。主題研究で授業にどう組み込んでいくか一人一研究授業を実施し検証し、継続的に授業に取り入れていくことが課題である。	3.0		②時代の変化に対応するために、一人一授業に取り組んでいるところが評価できる。

III 教育を支える体制や環境の整備・充実					
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ①教職員の資質向上と働き方改革を推進する校時程の運用 ②学校における業務の見直し	3.3	① 校時程を見直したことで放課後の時間的ゆとりが生まれ、授業準備や研究の時間を十分に確保することができ、日々の授業に生かされている。 ② 業務のスリム化については、どの業務や行事等を充実させるか、簡素化していくか、職員、保護者、地域の意見を聞きながら今後も検討の必要がある。	3.2	
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ①緊急時の避難体制の整備 ②交通安全指導の徹底 ③校内の安全整備	3.3	① 各部の担当を中心に、避難訓練や安全点検の提案を行い、計画的な実施に努めた。訓練の際は、専門機関と連携して充実した訓練になっている。 ② 全職員で日常的に交通安全指導を行った。下校時のひやり事案が数件あったので、当該児童やその保護者に指導を行った。 ③ 町教育委員会と連絡を取り、できるだけ早くの危険箇所修繕に努めた	3.1	① 計画通りの訓練や安全点検など実施できたことは大変よい。 ② 下校時のひやり事案の対応も適切であった。不審者情報の際は、自治公民館にも情報共有がなされたことで青パトを出して巡回や見守りを行うことができた。登下校の見守り活動をさらに充実させたい。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進					
1	学校体育の推進に努める。 ①体育学習の充実 ②運動の習慣化 ③望ましい生活習慣の定着化	3.3	① 学期ごとにあらゆる災害やシチュエーションを想定した避難訓練を計画し、実施してきた。安心、安全メールの活用も図り、保護者に連絡をする体制を整えることができた。 ② 本年度のスポーツテストA判定は10名であった。昼休みの外遊びを奨励したり、体育の時間の運動量を確保したりして、運動する機会を増やす取組を一層充実させる必要がある。さわやか体操は、委員会の児童を中心に毎日継続して計画的に行っている。第2回の運営協議会提案に基づき、徒歩通学を奨励する「運営協議会だより」を発行することができ、実際に車送迎をやめ、徒歩で登校させる家庭もあった。 ③ 学校保健委員会で朝食の大切さについて講師を招いて講話を行った。7月のPTA研修会でも、NF健康推進部のアンケート結果からメディアとの関わり方や朝食の大切さについて保護者に伝える機会が設けられた。決まった一部の保護者が参加することが多かったため、今後広く呼びかけていく必要がある。	3.4	① 身体を動かす事が苦手な児童もいると思うが、今後も体育の授業や休み時間等を通して、運動量を増やす工夫をしてもらいたい。 ②③ 徒歩通学の重要性を発信し、家庭から反応があったことがよかった。これからも徒歩通学の重要性を発信し続けてほしい。

【その他のご意見】 運動会を半日から1日開催にしてはどうか。